

EVOLUTION

Company Newsletter

vol. 21

2025.Dec

ひとりと向きあう。
社会福祉法人
iK 溪仁会

特集

リハビリの未来は地域にある。

北海道・岩内で見つける “生活と仕事の理想形”

本州から北海道へ。
“移住したスタッフ” が語るリアルな働き方。

CONTENT

Report.1 溪仁会グループ研究発表会

2. 祝表彰！山口県にて全国大会参加

表紙：コミュニティホーム岩内
～今年もツリーが完成しました！～

Live, Work, and Enjoy in This Town.



36歳でリハ職に挑戦。沖縄から見知らぬ北海道へ。対応の温かさに惹かれて移住し「縁があって呼ばれたのかな」と思う未来が待っていた。

決め手は“手厚すぎるおもてなし”

高卒で就職しその後は自営業の手伝い、そして通院が必要だった祖父母のサポート。それがリハ職をめざすきっかけとなったそう。36歳のときに3年制のリハビリ養成校に入学し、最年長の学生として学び直しに挑戦します。就職先は、地元こだわらず県外志望だったそうで、卒業生が働いていたコミ岩の見学へ。

一度も北海道にきたことがなかった川崎さん。新千歳空港までの送迎や宿泊先の手配、小樽駅までの送迎や旅程表まで用意された見学会。至れり尽くせりの対応に驚きと感激の想いを伝えてくれました。

岩内町の移住者への助成があったこともあり、万が一、国試に合格せずとも経済的負担が少なかったことや、助手としての就職も可能だったことで迷いはなかったそう。

とはいえ、沖縄とはまったく違う気候での暮らし。「何かにつけて冬の準備が必要なのは驚きでした。冬タイヤ、雪おろしブラシ、ストーブなど、いまだに出動前の雪かきは身をもって大変さを感じます(笑)」

でも、こちらにきて2年目の41歳のとき、地元の方と出会い結婚。一女にも恵まれます。奥様のご実家で毎週末過ごす生活に「とてもよくしてくれて。そんな遠くて寒いところに、と心配した自分の母も、まさか結婚して子供まで恵まれるなんて、と喜んでくれます。今となっては縁があってここに呼ばれたのかな、って思います。」

見学会の“雰囲気”は今も変わらず。

実は川崎さんは一度国家試験に落ちてしまいます。そんなとき、リハビリ責任者の部長が研修として札幌から「川崎さん1人のために」身体の動きや評価の仕方を教えるに来てくれたことにも感謝したそう。今年は沖縄の専門学校での就職イベントにも出張させてもらえ、当時の恩師に再会できたことにも胸が熱くなったと語ります。

職場も見学会のときの印象のまま、大室課長はじめ、皆フレンドリーであたたかく、ときにはブラックジョークまで(笑)。仕事だけではなく、冬の過ごし方、いろんなことをサポートしてくれて、面談でも「何か困ってることは?」って今も心配してくれますが、本当に何もありません。(笑)

「リハビリ職として、利用者さんと長く関われる老健ならではの、例えば洗濯物を干すのが難しい方には洗濯動作みたいなこともできたりする。前までふさがちだった方が最近よく外に出て散歩するようになったという話を聞くとやっぱりよかったなって、少しでも力になれるのかなって感じがします。」

祖父母の苦勞を間近で見ていた川崎さん。「もつとできることがあったんじゃないか。そんな思いもあって。だから今、在宅復帰を目指す方に何ができるか考えられる。それが役に立っています。」と力強く語ってくれました。



コミュニケーション部内
堀川 真吾 さん

1989年生まれ
大阪出身
理学療法士
2025.1.1入職

一人だけが突出してもチームとしては成り立たない。
共有・協調が自然にできる職場。
だから仕事が本当に楽しい。

夢を諦めなかった二十代。

「小学校から高校までバスケット。部活にすべてを捧げていました。でも、高校最後の大会前日に手を怪我してしまっただけで、試合に出られなかったんです。自分は何のためにバスケットをしていたんだろう、と落ち込みました。でも、治療だけでなくメンタルまで支えてくれた理学療法士さんと出会って。それがPTを目指すべききっかけでした。」

大阪生まれ大阪育ちの堀川さん。「大阪って、にぎやかな場所っていいところもあるしあるんですけど、自分自身、広い土地でゆったり働きたい気持ちがつつとありました。暑いのが苦手、寒いところもいいなあと。どうせなら、いちばん寒いところに行きたい!」と思い、まずは農業高校へ進学しました。

就職先が内定していたので一旦府内で就職したものの、PTになりたい夢・北海道に行きたい夢をあきらめきれず、二十歳で病院の介護助手へ転職。

学費を貯め、二十三歳で夜間の養成校へ入学。働きながら四年間学び、二十七歳でついに理学療法士の資格を取得します。そしてリハ職として経験を積み、「三十五歳で北海道に行く」と心に決めて計画を力タチにしています。

「北海道では最初、石狩市がいいかなと思っていました。理由は石狩鍋を食べたかったから(笑)。でも求人がなく。札幌などの都市部ではなく広大な地域で、訪問リハがある老健で働きたかったので、コミ岩に応募しました。」

大阪では病院勤務を経て、訪問リハに七年携わった堀川さん。

「訪問リハの魅力は、その方の生活環境

の中で、ご本人だけでなくご家族やケアマネさんとも密に関わりながら支援できること。老健も同じで、生活状況に合わせたリハビリ。ができるところが一番の魅力です。」

仲間とつくる。共有と協調。

コミ岩についてはこう語ります。

「自分の意見もリハ職としての視点もきちんと伝えられるし、思ったことを言い合える関係なんです。そういう雰囲気をつくってくれている大室課長の存在は大きいと思います。多分、誰に聞いても、課長や主任のおかげ、と感じていると思います。」

もともとはあまり意見を言うタイプではなかったが、「今では冗談も言えるようになった」と笑います。

「介護・看護のみならずとも、専門職同士で対等に意見を交わせます。一人だけが突出してもチームとしては成り立たないと思ってるんです。みんなで足並みをそろえて働けるのが好きだし、とても大事な点。だから仕事も本当に楽しい。コミ岩の魅力だと思います。」

岩内での生活も快適だそう。

「コンビニはあるし、不便はほとんど感じません。しいて言えば、一人暮らしなのでファミレスがあったら嬉しいくらい(笑)。道路も広いし交通量も少ない。大阪の難波に比べたら、札幌市内も十分静かに感じます。」

そして今、念願だった。北海道でセラピストとして働く。夢が叶って一年目。

「まずは今の環境でしっかり頑張りたいですね。いずれは、訪問リハにも担当したいです。そして高校での学びを活かしたWワークにも挑戦したいです。」

そう語る彼は、次の夢へ向けてまっすぐ輝いていました。



不意打ちショットでもこのチーム感!!



コミュニケーション部内
川崎 優 さん

1980年生まれ
沖縄出身
理学療法士
2019.4.1入職

コミュニケーション部内
リハビリテーション部 リハビリテーション課
2025.12月現在リハビリスト数11名
(OT1名・PT9名・ST1名)



介護の現場を率いる、その視線の先に。

向かって左より
西内山敬樹 生活支援課 主任
コミュニティホーム白石 看護課 課長
コミュニティホーム白石 介護課 副主任
コミュニティホーム白石 介護課 副主任
西内山敬樹 生活支援課 課長代理

Forum

溪仁会グループ
研究発表会

2025.10.18

ここに
ある。
チャレンジできる環境が

2025年10月18日（土）、溪仁会ビルにて「第37回 溪仁会グループ研究発表会」が開催されました。グループ全体から82演題がエントリーされ、当法人からも20演題が発表されました。

2021年度以降は感染症対策として、フォーラム形式が採用され、優秀演題のみが会場発表の対象となっていました。本年度は従来の形式に戻り、すべての演題が対面で発表されました。会場に足を運び、画面越しでは伝わりきらなかった発表者の熱量や会場の緊張感を強く感じました。

日々の業務の中で積み重ねてきた取り組みや工夫への活発な質疑応答が行われていました。様々な発表を通じて多くの学びや気づきが生まれ、法人全体の成長とモチベーション向上につながる、非常に有意義な場であったと感じています。

休憩時間には、ラウンジのソファに集うメンバーの姿が目に残りました。施設を越えた交流の中で、これまでの歩みや現在の課題、そして想いが語られていたのでしょう。その光景は、介護業界を支えるリーダーとしての頼もしさを感じさせるものでした。

思わずカメラを取り出し「ファインダーをのぞき込む」と同時に「斜め上を向いてください！」とポーズをお願いしておりました。（笑）

彼らが見つめる視線の先には、今回の研究発表会で得た学びと成果、を糧とした輝く未来がきっと描かれているはず——

その歩みを、これからも丁寧にお伝えしていきたいと感じた一日でした。



一つ屋根の下で、長い時間を共にしたメンバーが並ぶひととき。

認知症ケアリーダーが認知症ケア部門の部長を務める姿に、これまでの取り組みの成果が表れていました！
各部署・各職種からの発表に、職員一人ひとりの挑戦と工夫が確かな形となって実を結んだことを、広報担当としても嬉しく思います。



北海道老人保健施設大会
2025.10.18

研究発表会と同日に、第32回北海道老人保健施設大会がホテルエミシア札幌にて開催されていました。コミュニティホーム八雲の安田副施設長が、北海道社会貢献賞を受賞し、大会冒頭で表彰式が行われました。介護老人保健施設において原則20年以上業務に尽力し、その功績が顕著な者に贈られる栄誉ある賞です。



Award Trip

祝表彰

山口県にて 全国大会参加



第36回 全国介護老人保健施設大会
来年度は「栃木」！！

11月27・28日に山口県下関市で開催された全国老人保健施設大会にて、谷内理事長ならびにコミュニティホーム白石の看護課主任・コミュニティホーム美咲の相談課副主任が栄えある「厚生労働大臣表彰」を受賞しました。

受賞者代表として理事長が挨拶を務め、その功績を分かち合う誇らしいひとときとなりました。また、分科会でもコミュニティホーム白石より2名が登壇！日頃の実践について発表を行いました。

また、12月4・5日に同じく山口県で開催された「全国老人福祉施設大会・研究会議」へ、手稲つむぎの杜が参加しました。全道老人福祉施設研究大会で最優秀賞を受賞した「絶対家に帰りたい90代夫婦の絆」の演題が、全国大会においても奨励賞を受賞しました！

日々の取り組みを評価いただけたことは、大変光栄なことと思います。本受賞は、ご利用者・ご家族、そして現場で日々取り組みを重ねてきた職員一人ひとりの努力の積み重ねです。

今回の受賞をみんなで分かち合いながら、今後も各施設での取り組みや実践を丁寧に発信しながら、さらなる発表や挑戦の機会につなげることを願っています。



EDITOR'S NOTE

年を重ねるほど一年があっという間に過ぎていきます。「ジャンーの法則」によれば、1年が人生の中で占める割合が小さくなるほど体感時間は加速するのだとか。今年もマッハのスピードでしたが、皆さんと新たな一歩を踏み出せたかなと感じます。

社内報は内容を少しリニューアルし、よりスタッフの皆さんにスポットを当てた構成にしてみました。「ぜひ掲載してほしい！」というご要望や感想なども大歓迎です。年4回の社内報を皆さんで大切に育てていただければ幸いです！

発行：社会福祉法人 溪仁会

発行責任者：法人本部長 辻村 真

所在地：〒064-0823 北海道札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F

TEL：011-640-6767

問い合わせ先：広報担当 中谷



SNSでも施設の様子を紹介しています。ぜひご覧ください！